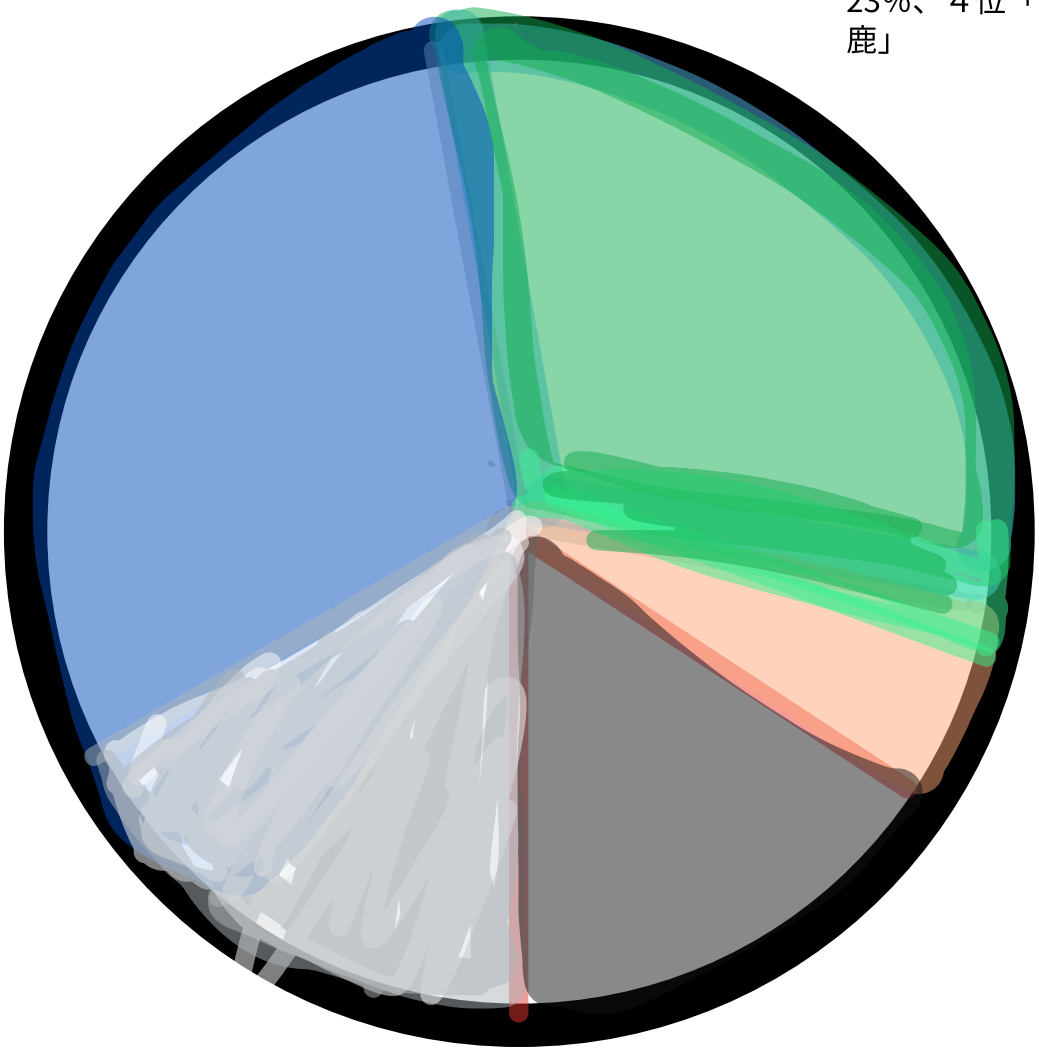
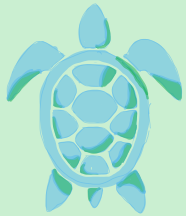
沖縄での人気生き物ランキング トップ5！

沖縄と言えば、国際通りでショッピングやグルメを楽しむのもいいですが、やっぱり澄みきった海や緑いっぱいの森など、都会にはない大自然が味わえるのも醍醐味（だいごみ）の一つですよね。
また、自然豊かな沖縄だからこそ、普段は目にする事がない希少（きしょう）動物にも会えるかもしれません。
そこで今回のアンケートではもし沖縄で会えるとしたら具体的にどんな野生動物に会いたいと思う人が多いのか、調べてみました！

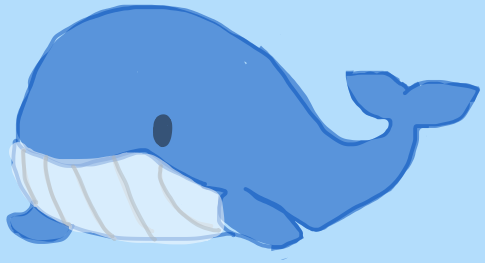
１位「くじら」31%
２位「ウミガメ」30%、３位「ヤンバルクイナ」23%、４位「マングース」16%、５位「ケラマ鹿」



惜しくもは「ウミガメ」は２位という結果に！



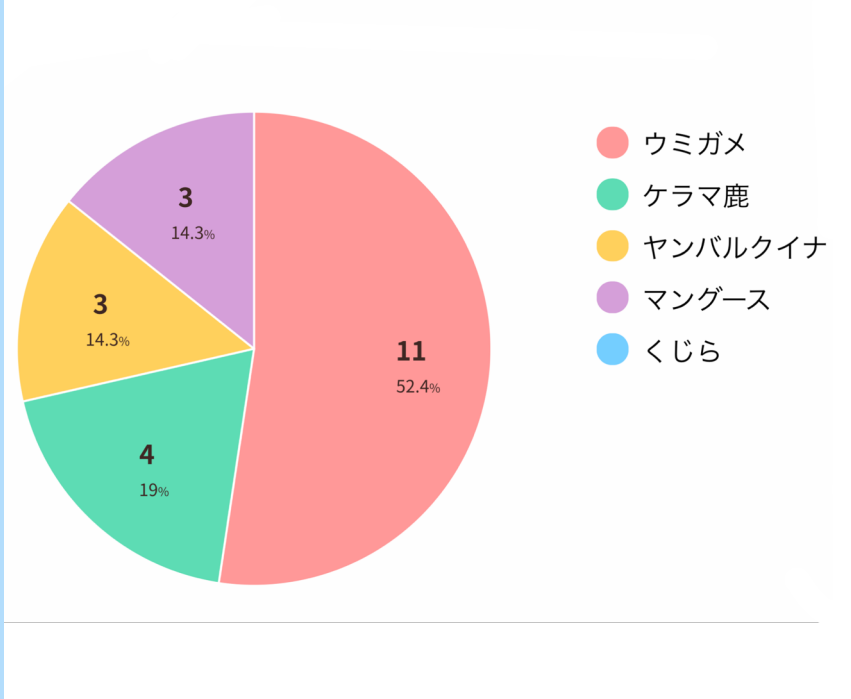
ウミガメと一緒に泳いでみたいという意見もあり、ザトウクジラと同様に男女問わず多くの人に人気があるようです。
そしてやはりウミガメと言えば、産卵（さんらん）風景を見てみたというコメントも多く寄せられました。またヤンバルクイナやマングースを選んだ人の中には見た目の可愛さに惹（ひ）かれるという声も。



僅差でトップは「ザトウクジラ」！

ザトウクジラのような大きいクジラは水族館では中々見られませんし、実際の海で会えるとなると感動ですよね。その圧倒的な大きさを自分の目で確かめてみたいという意見も目立ちました。
また沖縄ではダイビングを楽しみたいという人も多いようですが、もし水中でクジラと一緒に泳ぐ事が出来たら一生の思い出に残るかも？！

ヤンバルクイナやマングースを選んだ人の中には見た目の可愛さに惹かれるという声も。
そして残念ながらケラマ鹿と回答した人は今回のアンケートではゼロという結果に…



私のクラスではウミガメが多く
人気で。ザトウクジラが
少なかったです。
他ではザトウくじらが多かった
ですが、ここでは他の結果が
　みれてよかったです。

森よりも海の動物の方が人気が高い？！

今回のアンケートでは、「ヤンバルクイナ」や「マングース」よりも「ザトウクジラ」や「ウミガメ」に会ってみたいと答えた人の方が多かった事から、どちらかど言えば海の動物の方が人気が高い事が分かりました。
確かにシュノーケリングやダイビングなど海のアクティビティも充実していますし、せっかくならキレイな海を堪能したいと考える人も多いのかもしれませんね。
最近では色々なツアーが登場していますので、もしこれから沖縄に行くのなら、気になる野生動物に会えるプランを練ってみてはいかがでしょうか？

サイト名：・西遊旅行
URL：https://www.saiyu.co.jp/

国内では沖縄こどもの国（沖縄県沖縄市）だけのオンリーワン動物種（亜種）

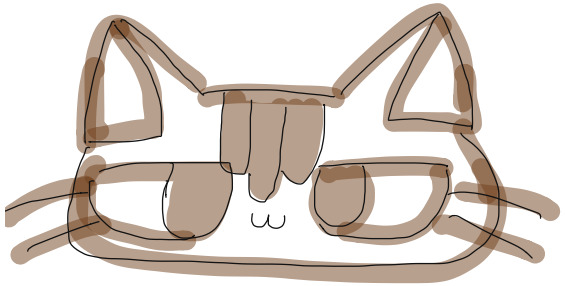
沖縄でしか会えない動物は、

- ケナガネズミ
- リュウキュウイノシシ
- イエイヌ（家畜）（リュウキュウケン）
- ダイトウオオコウモリ
- ニワトリ（家禽）（ウタイチャーン）
- アヒル（家禽）インディアンナー
- カンムリワシ（学名　Spilornis cheeia perplexes）
- アカハラダカ
- シロハラクイナ（学名 Amaurornis phoenicurus phoenicurus）
- ミフウズラ？（学名 Turnix suscitator okinavensis）
- ムナグロ
- コノハズク？（学名 Otus semitorques pryeri）
- オオハノハズク？？（学名 Otus semitorques pryeri）
- キシノウエトカゲ
- サンビームヘビ
- サキシマスジオ
- ヒメハブ
- リュウキュウハブ
- フロリダガメ
- ギアナヤマネコ
- サキシマヌマガエル
- リュウキュウカジカガエル

これが固有種類です

サイト名：Ariescom.jp
URL：https://www.ariescom.jp/entry/okinawakodomonokuni

イリオモテヤマネコ



イリオモテヤマネコは西表島に住んでいる猫です。
イリオモテヤマネコは、沖縄の固有種に決められた天然記念物です。

全長オス、約55～60cm
メス、約50～55cm
体重約オス、3.5～5.0kg
メス、3.0～3.5kg
国の天然記念物

ﾔﾝﾊﾞﾙｸｲﾅ

ヤンバルクイナは短くて丸い翼が特徴の鳥です。ヤンバルクイナの翼は面積が小さく筋肉も発達していないので飛ぶことができません。

全長約35cm
体重約420g
国の天然記念物

ｹﾅｶﾞﾈｽﾞﾐ

ケナガネズミは夜行性のためあまりみることができません。
昼間はは樹洞で休んでいて、夜に活動します。

全長22～33cm
体重300～400g
尻尾約30cm

ﾉｸﾞﾁｹﾞﾗ

全体はほぼ暗褐色尾羽は黒色の鳥です。
頭上はオスが赤で、メスは黒褐色です。

全長30cm
体重130g
翼長15～17cm

沖縄の陸の生きもの

ヤンバルクイナ

(１)分類

ツル目　クイナ科

ヤンバルクイナ

絶滅危惧IＡ類（環境省第4次レッドリスト）

(２)分布及び個体数

沖縄島北部やんばる地域のみに分布し、常緑広葉樹林の林床や周辺の草原に生息

マングースの北上に伴い、本種の分布の南限が北上し、発見後15年間で分布域は約25%減少。平成17年度からのマングース防除事業の本格的実施に伴い、平成24年には一旦確認されなくなった地域で２件の繁殖確認があり、縮小していた生息域が回復傾向をみせている。

昭和61年に約1800羽と推定。以降、減少傾向にあり、平成17年の調査では約720羽と推定された。その後、生息数は1000羽前後で推移していたが、マングース防除事業の進展に伴い、平成23年以降、本種の分布域及び生息数は回復傾向にあると考えられ、平成26年現在、約1500羽が生息していると推定されている。

昭和56年に新種として発見。沖縄島のみに分布する固有種

全長30cm、日本唯一の無飛力の鳥類

雑食性であるが、主食は小動物

繁殖期は３～７月。地上に営巣し、一腹産卵数は４～５卵

環境省ホームページより引用

https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/yambarukuina.html

イリオモテヤマネコ

(１)分類

食肉目 ネコ科

イリオモテヤマネコ

学名　Prionailurus bengalensis iriomotensis

絶滅危惧IA類（EN)（環境省第4次レッドリスト）

(２)分布状況

沖縄県西表島のみに分布

島の低地部の湿地、河川・沢沿いをよく利用し、マングローブ林、農耕地周辺にも現れる。

(３)現在の生息数

推定個体数は100～109頭（平成17年～19年度第４次総合調査）。減少傾向

写真：イリオモテヤマネコ

２．形態的特徴及び生物学的特性

西表島の固有種。体重3～4kg、頭胴長50～60cm

育児･出産については、２頭前後を樹洞などに産んだ事例が報告されている。

餌は小型哺乳類、鳥類、爬虫類、カエル類、昆虫類と多様

環境省ホームページより引用

https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/iriomoteyamaneko.html

ミヤコカナヘビ

１．概要

(１)分類

トカゲ亜目　カナヘビ科

ミヤコカナヘビ

学名　Takydromus toyamai

絶滅危惧IＡ類（環境省第4次レッドリスト）

(２)分布及び個体数

沖縄県宮古島市（宮古島、池間島、伊良部島、大神島等）

総数は不明。2000年頃までは、比較的多くの個体を見ることができる生息地もあったが、現在はどの生息地においても個体数密度が相当に低くなったと考えられ、目撃することが困難になりつつある。

ミヤコカナヘビ

２．形態的特徴及び生物学的特性

全長はオスで290mm、メスで270mmに達し、その75％程度を尾が占める。頭胴長は雌雄ともに6.5cmに達する。

頭部を含め非常に細身の体型をしており、体はほぼ一様に鮮やかな緑色だが、四肢は少なくとも先端部が褐色ないし赤褐色。幼体では尾も褐色。成体でも腹側面から腹面にかけて次第に黄色味が強くなる。

森林や藪を背後に抱えた草地に生息するが、草原や農耕地、住宅地周辺の空き地のような環境でも見られることがある。

昆虫類・クモ類などを餌とする。

交尾期間は少なくとも3月中旬～6月中旬。雌は草の根元や浅い土中に2～3 個の卵を年に何回か産み、1ヶ月ほどで孵化する。

日本固有種

環境省ホームページより引用

https://www.google.co.jp/search?safe=strict&q=ミヤコカナヘビ&x=0&y=0

ノグチゲラ

(１)分類

キツツキ目 キツツキ科

ツノグチゲラ

絶滅危惧ⅠＡ類

(２)分布及び個体数

１属１種の沖縄島固有種。沖縄島北部のやんばる地域のみに分布。

90年代の調査結果から、生息数は最大500羽程度と推定されたが、現在の生息数は不明。

全長30cm、翼長15～17cm

照葉樹林に生息し、直径が20㎝以上の大木に樹洞を掘り営巣

４～５月に産卵、５～６月に巣立ち

樹上や地上で節足動物や果実を採餌

環境省ホームページより引用

https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/noguchigera.html